

令和3年3月22日

## 別れと出会いの春

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

本年度も県教職員人事異動の時期になりました。定年退職、転勤、新規採用等、いろんな春を迎えます。長きにわたり教職を続けられ、定年退職を迎えられた先生方にとってはいろんな思いが交錯していることでしょう。教育の充実、発展の為に、公私を問わず尽力された先生方に感謝いたします。第二の人生も元気に楽しんでください。人生、まだまだこれからです。

転勤される先生方にとっては、去りゆく学校への惜別や感謝の念、新しい赴任地への期待や不安、いろんな感情が渦巻いていることでしょう。まだ見ぬ子供たちが先生方を待っています。今後も身体に気をつけられ、お力を発揮されてください。

春は別れの季節ですが、新しい出会いの季節でもあります。新規採用の先生方も、新たな出会いに夢と希望を抱き、目の前の子供たちのために頑張ってください。私も初めて教壇の前に立ったあの日のことを懐かしく思い出しました。初心を忘れないようにしたいと思います。

令和3年3月11日

## あの日から10年

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

東日本大震災から今日で10年が経ちました。時の流れの早さに驚かされると共に、あの頃の記憶や気持ちが鈍化しているように思えました。あの震災の記憶を風化させないことが、何よりの教訓に繋がるのではないかと考えます。

本校では、本年度から文部科学省の防災事業の指定を中学校区で受けています。本年度はPepperによるweb会議システムアプリを活用して、茨城県、和歌山県の小学校と遠隔合同防災授業を行いました。また、鹿児島地方気象台職員による津波防災授業も行いました。子供たちや教職員の災害に対する意識の向上が図られたと思います。災害はいつ起こるか分かりません。防災に対する意識や備えを日頃から行う必要性を感じます。

復興に向けて、日々努力をされている方々の御苦勞を共に感じる気持ちを忘れず、自分にできることを考え、実行していきたいと思います。この震災で亡くなられた方々の御冥福と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

令和3年3月4日

## 心温まる手紙

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

2月12日本誌の「子供の目」に掲載された「気付く力」を読んで、とても感動しました。作者の母親の見知らぬおばあさんへの優しい行為、誰にでも出来ることではないと感じました。そして、その行為の善さに気付く作者の目、心に深く感動しました。早速、作者が通う小学校宛に思いを伝える手紙を送りました。

昨日、作者の母親から心温まる手紙が届きました。手紙を読みながら、また感動と感謝の気持ちでいっぱいになり、涙が溢れました。電話番号が記されていたので、電話をかけました。お互いに思いを伝え合う温かな会話内容となりました。受話器を置く際に、この御家庭の更なる御多幸と御健勝を祈らずにはいられませんでした。再び温かな気持ちになりました。

感動は感動を呼び、喜びは連鎖するのだなと改めて思いました。そして、作者のように周囲への「気付く力」を持ち、どのように自分が行動するべきかをよく考え、実践できる人間になりたいと思いました。

令和3年3月1日

## 関心と感心を持って生きる

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

関心と感心という漢字は同音異義語です。学年度末に当たり、この二つの言葉について考えてみました。関心とは、そのことについて興味を持ち、また、そのことをより深く知ろうとする気持ちを持つことです。感心とは、困難なことを克服した自他の行為に、驚きの気持ちで見つめたり、すごいなと感じたりすることです。

子供たち一人一人、そして、私たち大人は、この一年間でどのようなことに関心を持ち、それをどのようにやり遂げることができたのでしょうか。また、どのようなことに感心したのでしょうか。感心したことに対して、どれだけの賞賛の言葉を贈ることができたのでしょうか。今までの行為について深く振り返り、しっかりと反省をしたいと思います。また、成果と課題を今後に生かしていきたいものです。

コロナ禍でも日々の生活は続きます。より善く生きるということにもっと関心と感心を持って、前向きに生きていきたいと思います。明るい未来を信じて。

令和3年2月16日

## 入学に希望膨らむ緋桜や

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

来年度の新入学児及びその保護者の皆様に対して、入学説明会を開催しました。

1, 2年生に手を引かれ、学校探検に向かう途中、にこやかな表情で楽しそうにしている園児もいれば、少し緊張して不安を隠せない園児もいました。交流会が始まると、表情も和らぎ、どの子も楽しそうに過ごしていました。少しお兄さん、お姉さんに見える1, 2年生をととても頼もしく思いました。

保護者の皆様も本校職員の説明に真剣に耳を傾けておられました。特に初めてお子様を入学させる保護者の皆様は、不安なことも多いことでしょう。分からない点は遠慮なく学校にお問い合わせください。また、入学式までに何度か通学路を一緒に歩き、小学校生活への期待感を高める声かけもお願いします。

入学式は、毎年の恒例行事ではありますが、その子にとっては一生に一度の大切な行事です。御家族で楽しみにされているお子様の小学校入学を、職員一同、万全な態勢でお待ちいたしております。

令和3年2月15日

## 日頃の備えを大切に

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

東日本大震災の余震と見られる地震が東北地方で発生しました。もうすぐ10年目を迎える大震災の余波に、改めて自然の猛威を思い知らされました。

地震発生後、すぐにSNSを活用して、福島に住む友人に連絡を入れました。幸い無事とのことで一安心しましたが、間断なく続く余震への恐怖、街の様子等を教えてもらい、ただただ一日も早い終息を願うばかりです。

学校でも各種災害の非難訓練や防災授業を行っています。自ら考え、自ら身を守る行動が取れるように、防災に対する意識を更に高く持つことが必要だと思いました。

災害はいつ起こるか分かりません。忘れた頃にやってきます。防災マップ、避難経路、防災グッズ、連絡体制等の確認が必要です。今までの教訓を忘れることなく、いざというときに生かしていきたいものです。地震の様子を伝える深夜の映像を見ながら、その瞬間に一体何ができるのかを自問自答すると共に、日頃の備えについて考えさせられました。

令和3年2月12日

## 「気付く力」を読んで

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

2月12日（金）南日本新聞「若い目」に掲載された「気付く力」を読んで、とても感動しました。お母様の見知らぬ方への善意ある行為もとても素晴らしいのですが、その行為の素晴らしさに「気付く」りさんの目、心に、深く感動しました。

これから、りさんが、周囲に目と心を配ることのできる優しい人間へと成長していくのだろうと、とても楽しみでもあり、頼もしくも感じました。今後も周囲への気配りを忘れない、気付く目を持った優しいりさんでいてくださいね。立神小学校の校長先生に電話をかけて感動したことを伝えました。素晴らしいお母様にもよろしくお伝えください。

とても清々しい気持ちにしてもらいました。嬉しくて便りを書きました。素晴らしい作文を書いたりりさんに、賛辞と感謝の言葉を贈ります。本当にありがとうございました。卒業まであまり日がありませんが、楽しい小学校生活の思い出を、お友達とたくさんつくってくださいね。

令和3年2月10日

## 先生方の姿を見習って

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

2月9日に大島地区研究協力校（ICT利活用教育）の公開研究会を行いました。本校では、母間小学校との5・6年国語科の遠隔合同授業を参観して頂きました。また、全体会、分科会は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、徳之島町北部4小学校をテレビ会議システムで繋いで行いました。

ICT機器を活用して、複式、少人数指導のデメリットをストロングポイントに変える遠隔合同授業は、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の両方に生かす可能性を秘めています。今後も更なるICTを活用した教育の研究を深めようと意気込む教職員と共に、新たな学びの創造を目指していきたいと思えます。

学力向上にとって何よりも大切なことは、知的好奇心と学びを継続する力だと思います。一人一人の子供たちの学習意欲の喚起や定着を図る反復学習について、今後も家庭との連携を深めていきたいと思えます。

今回の研究公開を通して、本校教職員の学びに対する熱い姿勢に心を打たれると共に、子供たちにも是非、見習ってほしいと思えました。

令和3年2月8日

## 清々しい朝の登校指導

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

朝の登校指導を行っている時、毎朝いろんな楽しみに出会います。小中学生、幼稚園生の元気な朝の挨拶、停車して下さった方への感謝の言葉と会釈の光景に、癒されます。

また、わざわざ減速され、窓を開けて「雨の中ご苦労様です。」「寒い中いつもご苦労様です。」と声をかけてくださる保護者や地域の方々、見知らぬドライバーの方もおられます。学校を留守にした翌朝には、「校長先生、体調が悪かったのではないですか。」と声をかけてくださる方もおられます。本当に嬉しくて、感謝の気持ちでいっぱいになります。朝から清々しい気持ちになり、私にとっては楽しい日課でもあり、大袈裟かもしれませんが、生きる喜びにもつながっています。

他者から見たら、大変だなと思われるようなことも、当の本人にとっては、楽しみの一つだったり、生きがいだったりします。仕事や勉強なども心がけ一つで、楽しみにも苦しみにもなるのだなと登校指導中にふと思いました。



令和3年2月1日

## 節分に「鬼滅の刃」水の呼吸

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

今年は、2月2日が節分です。節分に「鬼は外、福は内」と豆を投げながら、大声を上げてはしゃぎ回った少年時代を懐かしく思い出しました。きっと今年も、各家庭で同じような光景が繰り広げられることでしょう。今年は特に、新型コロナウイルス感染症という病気鬼を退治することが急務です。「鬼滅の刃」の炭次郎にも活躍してほしいものです。

学校で話題になる心の鬼とは、怠け鬼、いたずら鬼、宿題忘れ鬼、寝坊鬼等、さまざまですが、これらはすべて、人間の心の弱さに起因するものばかりです。心の鬼を想起すること、また、向き合う（対峙する）こと自体、とても意味あることだと思います。そこには、今までの自分を反省する心があるからです。なりたい自分になるために、心の弱さを乗り越え、自己を賞賛できる自分にも出会ってほしいと思います。

節分が過ぎれば暦の上では春を迎えます。学年度のまとめの時期です。心の鬼を退治し、有終の美を飾りましょう。

令和3年1月20日

## 凧あげを見ながら

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

先日の授業参観で、1年生の教室では、親子で凧づくりを行いました。その後、完成したばかりの凧を、親子で協力しながら楽しそうに校庭で上げていました。無邪気に校庭を走り回る子供たちの姿を見ながら、とても微笑ましく思いました。正月の伝統的な遊びの一つでもある凧あげを通して、親子の絆を深めることにも繋がりました。1年生の子供たちは、翌週には、隣接する幼稚園児に、凧の上げ方を丁寧に教え、園児と共に楽しく凧あげを楽しみました。1年生が、とても立派なお兄さん、お姉さんに見えました。

そんな子供たちの様子を見ながら、ふと、次の言葉を思い出しました。ウィンストン・チャーチルの「凧がいちばん高く上がるのは、風に向かっていくときである。」という言葉です。コロナ禍で、逆風吹き荒れる昨今ですが、この困難に負けることなく立ち向かい、明日への希望を持って生きていきたいと思いました。無邪気に走り回る子供たちの未来のためにも。

令和3年1月15日

## 食育で心も体も健康に

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

栄養教諭を講師に招き、学校保健委員会で食に関する講話を拝聴しました。専門的でとても分かりやすい指導を受け、食の大切さ、野菜摂取の必要性等を深く、そして、楽しく学ぶことができました。

結びの挨拶で、ご飯を食べる前に、どうして「いただきます」と言うのか、食べ終わった後に、どうして「ごちそうさま」と言うのか、各家庭で話題にするように伝えました。その答えは、きっと家族への思い、生産者の願いや流通の流れ等にも拡がり、周囲への感謝の気持ちを高めることにも繋がることでしょう。食に対する安全安心、自然環境保護へと関心が高まることにも期待したいと思います。

ソクラテスは、「人は食べるために生きるのではない。生きるために食べるのである。」と語りました。「食育」は、「人が良く育つ」と書きます。今後もコロナ禍の食事マナーも含め、子供たちが心身共に健やかに育つ食育の創造に向けて、家庭との連携を深めていきたいと思えます。

令和3年1月4日

## 元日の決意も新たに三学期

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

三学期は、本年度のまとめの学期です。また、進学、進級と新年度に向けての大切な準備の学期でもあります。1月8日には、子供たち一人一人が新年の目標や計画を立てて、登校することでしょう。それぞれの目標実現に向けて、今後も努力を続けてほしいと思います。

とはいうものの、人間はそんなに強い生き物ではありません。誰かの支えが必要です。時には挫折を味わい、目標変更を余儀なくされます。そんなときに、子供に寄り添い、必要な支援や指導を行う大人の存在が欠かせません。教職員や保護者、地域の方々、大人と呼ばれる人々の連携とサポートが必要不可欠です。

学校と家庭、地域の三者が一体となって、子供たち一人一人のよりよき成長に、今後も深く関わっていきましょう。新型コロナウイルス感染症に負けず、「子供たちのために」を合言葉に、それぞれの立場で何ができるかを常に考え、未来を見据えた教育活動の展開と改善に鋭意努力していきましょう。変わらぬ御支援、御協力をお願いいたします。

令和2年12月24日

## 新年がよき年でありますように

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

コロナ禍の中でも学校教育活動の充実を期すため、工夫を凝らしながら取り組んできました。中でも校区合同運動会、学習発表会、持久走大会等、子供たちの頑張りに元気をもらい、感動する日々でした。子供たちもきっと達成感や成就感、そして、自己肯定感を高めたことでしょう。また、保護者や地域の方々の温かい御支援、御協力に対しまして深く感謝申し上げます。

例年とは少し違う冬休みが始まります。各家庭では感染症対策の徹底のもと、それぞれ工夫を凝らした楽しい計画が立てられていることでしょう。正月ならではの体験を多く積み、日本文化のよさを肌で感じてほしいと思います。

元日の朝、日頃見慣れた風景も何か新鮮に感じられるのは私だけではないはずです。「一年の計は元旦にあり」です。子供たちには、新年の抱負や目標、夢や希望、各自の取り組むべき計画をしっかりと立て、また新たな挑戦を続けてほしいと思います。新年がよき年でありますように。

令和2年12月15日

## 寒空に感動いっぱい持久走

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

本日、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して、持久走大会を行いました。毎朝の体力づくりで走った距離をカードに記録し、計画的に頑張ってきた子供たちです。時折小雨も降りましたが、一人一人が自己ベストを目指し、力走を見せてくれました。沿道では保護者の皆様が、子供たちの頑張りに声援ではなく、大きな拍手を送って下さいました。

自己肯定感を高めるには、目標を立て、工夫したり努力したりする点などを自ら考え、その基準に沿ってどこまで達成できたかを自己評価することと、それを他者が認め、賞賛するといった一連の関連性が重要です。私は子供たちの頑張りに素直に賛辞を贈ることができました。子供たちにとって、自尊感情と自己有用感を自ら育み、自己肯定感を更に高めることができた持久走大会になったと思います。今後の生活にも生かしてほしいと思います。コロナ禍ではありますが、子供たちの頑張りに感動と勇気をもらいました。

令和2年12月4日

## 今こそ徳之島町民の力を発揮しよう

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

人が憂うと書いて優しさと読みます。憂いのない人生なんてあり得ませんので、人は皆、他者に優しくできるはずです。そして、優しい人は、優れている人なのだと思います。

目の前で困っている人、助けを求めている人、いじめに遭っている人には、手を差しのべる、寄り添う、思いやりのある言葉をかける等、当たり前のことを当たり前、勇気を出して行動に移したいものです。優しさとは勇気ある強さだとも言えそうです。

徳之島町でも新型コロナウイルス感染症罹患者の報道発表がありました。まずは罹患者の一日も早い御快復を祈ります。それと同時に、罹患者や医療従事者等の関係者への誹謗中傷や人権上の配慮を欠いた言動には、厳に慎んでいきたいものです。今こそ島民の優しさと温かさを発揮しましょう。一日も早く感染症が終息し、明るく元気に過ごせるように、皆ができることを考えて実践しましょう。子供たちを教え導く大人が、見本となる姿を見せましょう。

令和2年11月14日

## 秋の日に感動溢れる発表会

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

本日、学習発表会を行いました。本年度は、コロナ対策を入念に行っての実施となりました。

幼稚園児は、遊技やエイサー、合唱、合奏を発表しました。1年生は、小学校生活でできるようになったことを発表しました。2年生は、「花徳浜のスイミー」と題した島口劇を行いました。3・4年生は、町企画課と共同研究を行っている「生物多様性を育む河川を題材とした環境教育」のプレゼン発表を行いました。5・6年生は、体育科での縄とびやマット運動等の技を音楽に合わせて発表しました。また、島唄・島口クラブでは、サーギ節、パブリカの演奏を、プログラミングクラブは、かけ算九九のゲームプログラミングを日頃から御指導くださる地域の方々と一緒に発表しました。

感動をもらった園児や児童、教職員を誇らしく思いました。コロナの感染は終息してほしいのですが、感動の感染は、人々に生きる希望や勇気、明るさを与えるものだと思感する秋の一日となりました。

令和2年11月5日

## 防災を学びて生きる津波の日

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

今日は世界津波の日でした。本校では、福岡管区気象台とコンテンツ制作契約を結んだソフトバンク株式会社の Pepper による防災授業を行いました。その授業には、Web 会議システムのアプリを活用して、同じSDGs 未来都市同士のつくば市立竹園東小学校、和歌山市立砂山小学校の子供たちが遠隔授業に参加しました。

事前に各校と1回ずつ Web 会議システムで交流会を実施し、当日の防災授業を迎えました。子供たちは他の地域での自然災害を学び、自ら考え、身を守る行動が取れるような知識を学びました。そして、Pepper や Web 会議システム等、最先端の ICT ツールを活用することで、コミュニケーション能力や集中力を高め、防災に対する意識を高く持つことができました。

災害はいつ起こるか分かりません。学んだことを忘れることなく、いざというときに活かしてほしいと思います。本校の子供たちにとっても、他の地域の子供たちとの交流は大きな財産となりました。



令和2年11月1日

## 季節の彩りに感謝

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

本校の中央玄関には、季節に応じた草花を職員が生け花として飾ってくださっています。ある日、その飾り棚の下に自作のつたない俳句を書いた紙を掲示しておきました。それを見たその職員が、とても感動したと喜んでくださいました。

ある日、その職員から「校長先生、これからは俳句に読み仮名を書いてください。子どもたちが、校長先生の俳句を暗唱しています。」それからは、俳句に読み仮名を書いて掲示することにしました。すると今度は「せっかく書いた俳句なので、校長室前に掲示コーナーを設けましょう。」と提案され、校長室前に俳句コーナーを設置してくださいました。子どもたちが足を止めて読んでいます。恥ずかしい限りですが、笑顔で読む姿を見ていると心癒されます。

生け花を見ることで、季節の彩りを身近に感じることができています。その職員の小さな心配りにいつも感謝しています。今月も俳句づくりを頑張ります。「柿の実の熟して香る夕日かな」

令和2年10月26日

## SDGs 防災授業事前学習交流会に想う

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

11月5日（世界津波の日）に行われる、福岡管区気象台とコンテンツ制作契約を結んだソフトバンク株式会社の「Pepperによる防災授業」に向けて、事前交流学習会を行いました。これは、同じSDGs未来都市同士のつくば市立竹園東小学校、和歌山市立砂山小学校の子供たちと各一回、テレビ会議システムを活用しての遠隔合同授業です。

各学校や地域の特色をクイズ形式で出題したり、各地域での災害の種類や避難経路、防災グッズ等の紹介をしたりして、子供たちは、各地域に応じた防災対策等について深く学ぶことができました。

授業を実施した先生方や参観した先生方にも新たな気づきがあり、遠隔授業改善に向けての意欲も高まりました。そして、何よりも嬉しかったのは、他地域の子供たちとの交流を通して、子供たち一人一人の目の輝きや表情がとても眩しかったことです。今後も持続可能な遠隔授業の実施と内容改善に向けて、研修を深めていきたいと思えます。

令和2年10月15日

## 心の健康について

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

子供たちも先生方も、コロナ禍で何らかのストレスを抱えて生きているのが現状です。ストレスの強さは、同じストレス要因に遭遇しても一人一人違います。そのストレスにどう対処するかを本人が考え、うまく対処できている状態が「心の健康」だと言えそうです。

ストレスの特効薬、それはよりよい人間関係だと思えます。まず家庭における人間関係では、何と言っても温かいスキンシップだと思えます。お子さんとの心身のふれあいを大切にし、家庭に「安全の基地」を築いてほしいと思えます。

学校や地域では、ソーシャルサポートという「癒し」を大切にしたいものです。友達が多い方が長生きする、ストレスを上手に乗り切れると言われます。特に学校で行われる心の教育は、ストレス要因の回避行動を学ぶことではなく、他者との関係性を高め、心豊かな生活を送れるように支援していきたいと思えます。全教育活動を通して、子供たちの心の健康にも向き合っていきます。

令和2年10月12日

## 不審者も台風同様備えあれ

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

警察署、子ども110番の家の方々をお招きし、不審者対応訓練を実施しました。毎年実施している訓練ではありますが、子供たちや職員にとって、日頃の危機管理や非難行動等について、改めて深く考えるよい機会となりました。

台風対策は天気予報等で事前に対応可能ですが、不審者の侵入は予測不可能な事態です。常日頃から対応マニュアルの確認や改善、共通理解と共通実践、連絡体制の手順や関係機関との連携の在り方等について、再確認する必要性を感じました。

万が一に備え、登下校中や休日における対応等についても、訓練で学んだことを実生活に生かしてほしいと思います。御家庭でも避難行動の「いかのおすし」の実践について、再度確認されてください。特に大声を出して逃げることを最優先させてください。

不審者の見極めは、とても難しいことです。しかし、日頃から誰に対しても気持ちのよい挨拶を実践することは、防犯上も必要なことなのかもしれません。

令和2年10月13日

## 教員採用試験合格者発表に想う

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

先週、県教員採用試験二次合格者の発表がありました。一昔前までは可否の結果は、受験者全員への郵送でしたが、最近では県教委のホームページからも確認することができます。知人の受験番号を探し、その番号を見つけたときには自分のことのように嬉しく思いました。

30年以上前のことですが、母から合格の知らせを聞いた電話を忘れません。受話器を握りしめ、飛び跳ねて喜びました。ちょうど教育実習の最中でしたが、指導教官から「4月になればまだ見ぬ子供たちとの出会いが待っています。」と、祝福や励まし言葉をかけてもらいました。

教員採用試験に合格することは難しいことです。しかし、教師であり続けることは、もっと難しいことでもあります。あのときの感動と初心を忘れることなく、教師の道を精進していきたいと思います。

合格された皆さん、悲しい思いをされている方の存在も忘れず、理想とする教師像に向けて、学び続ける教師であってください。

令和2年10月6日

## 実り多き秋へ

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

全校朝会で、「〇〇の秋」と書いた一枚の紙を子どもたちに見せて、〇〇に入る言葉を考えてもらいました。子どもたちは、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋等、様々な秋を考えてくれました。学習にも適した時期なので、「学問の秋でもあります。実りの秋になるといいですね。伸びる子の決意も堅し天高し」と、付け加えておきました。

いつものように授業参観をしていると、常日頃から授業改善に努力している先生方ですが、発問構成、板書の構造化、ICT機器の活用等、更に工夫を凝らした授業が展開されていました。また、懸命に学ぶ子どもたちの姿がそこにはありました。思わず各教室の前で足を止め、授業展開に見入ってしまいました。

ただ待っているだけでは、受け身の姿勢では、多くの収穫は期待できません。前向きに、目標実現に向けた懸命の取組にこそ、大きな収穫が期待できると思います。教員共に学ぶ楽しさを追求する姿勢に、実り多き秋を予感しました。



令和2年10月3日

## 本当の優しさとは

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

人が憂うと書いて優しさと書きます。人は憂いを経験することにより、他者に優しくできるのかもしれませんが。憂いのない人生なんてありませんから、人は皆、他者に優しくできるはずです。

目の前で困っている人、助けを求めている人、いじめに遭っている人には、手を差しのべる、寄り添う、思いやりのある言葉をかける等、当たり前のことを当たり前、勇気を出して行動に移したいものです。優しさとは、勇気ある強さだと思います。

本校の校訓は、「明るく、強く、最後まで」です。子供たちが明るく元気に、健康に過ごしてほしいと思います。また、勇気ある強さを持ち、周囲と仲良く、感謝の気持ちを忘れずに生活してほしいと思います。さらに、目標に向かって最後まで、困難に負けず粘り強くやり遂げることでできる大人に成長してほしいと思います。

子供たちを教え導く我々教職員も、そんな大人であり続けたいものです。コロナ禍の昨今、こんなことを考えました。

令和2年10月1日

## 生きるとは

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

相次ぐ著名人の自死の報道に接して、生きるということの本質を自問自答する昨今です。

出産直後の赤ちゃんは一人泣きますが、周りの人々はその誕生を祝福し、笑顔で喜びます。これとは逆に天寿を全うし、臨終の際には当人一人は泣きませんが、周りの人々は別れを惜しんで悲しみの涙を流します。

なぜ人は生きるのか、永遠の命題です。一つ言えることは、その答えを見つけるために「生きる」のではないのでしょうか。人生は、悲喜交々、喜怒哀楽の連続です。むしろ悲しみ、苦しみの方が多いのが現実です。その人が感じる全ての幸福と不幸を足して2で割ったときに、少しでも幸福の方が上位であれば、楽しい人生だったと思えるのではないのでしょうか。最後は、笑顔で逝きたいものです。

特にコロナ禍の昨今です。思い悩む人々を一人でも多く救済できる社会の構築を目指したいものです。まずは、身近にいる人に相談する、相談できる人間関係の構築が大切だと思います。

令和2年9月20日

## 秋空に歓声響け運動会

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

本日、天候を気にしながら、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底する中、午前開催ではありましたが、当初の計画通りに運動会を実施することができました。また、来賓、保護者、地域の方々も一体となって運動会を盛り上げてくださいました。心から御礼申し上げます。子どもたちにとっても、日々の練習の成果を遺憾なく発揮し、思い出に残る楽しい運動会になったに違いありません。

人は一生懸命に取り組み、励む姿に素直に感動するものです。感動とは、文字通り感じて動くのであり、理屈で動く理動という言葉はありません。子どもたちの一生懸命に走る姿や楽しく踊る表現運動、大きな声援に、思わず涙腺が緩んでしまいました。一人一人の頑張り、素直に感動する運動会となりました。

多くの方々の力で成り立った運動会です。子どもたちにも、きっと感謝の念が生まれたはずですが。その気持ちを忘れずに、今後も様々な面で活躍してほしいと思います。

和2年9月18日

## 敬老の日に亡き父を想う

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

9月21日は敬老の日です。私の両親と同世代の方々には、先の悲しい大戦の戦前、戦中、戦後の混沌とした世の中をたくましく生き抜き、高度経済成長に貢献され、平和な日本の礎を築いてこられた方々です。並大抵の苦勞ではなかったはずですが、たくさんの悲しみや苦勞を乗り越えてこられた方々だと想像に難くありません。

五年前に他界した昭和8年生まれの父親が、酒に酔えばいつも戦後の混乱期の話をしてくれました。「その当時は、みんな苦しみの中にいた。しかし、苦勞を苦勞とも思わず、懸命に働いた。明日の幸せを信じて。何にも無い時代だったが、今思えばとても楽しかった。夢や希望は、いくらでもみることができたから。」と。

時代は昭和から平成、令和に変わりました。新型コロナウイルスと共存して生きる昨今ですが、誰もが夢や希望を抱ける時代であってほしいものです。亡き父の生き様をもっと知り、もっと語り合い、素直に感謝の意を伝えるべきでした。

令和2年9月18日

## 思い出に残る運動会に

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

運動会練習が本格的に始まりました。子どもたちの元気な声が校庭から聞こえてきます。先生方も子どもたちと一緒に練習に励んでいます。幼稚園も併設されている本校では、園児も全体練習に参加し、小さいながらも元気に、愛らしく活動しています。暑い中での練習です。熱中症への対応、そして、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止策への配慮も欠かせません。職員のきめ細かな対応に、日々感謝しています。

本校の運動会は、校区との合同運動会でもあり、地域の方々の協力や支援がなんとも有難いです。運動会前の奉仕作業では、地域の方々や各集落の青年団員が、保護者と共に汗を流してくださいました。本年度はコロナ禍の影響で、残念ながら午前開催となります。しかし、子どもたちを含め、参加される全ての方々にとって、楽しく思い出に残る運動会になることを切に願っています。参加者一人一人が、主人公と思える秋晴れの日になりますように。

令和2年9月2日

## 二学期もやる気に満ちた日焼け顔

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

台風9号の影響で一日遅れの二学期始業式となりました。子どもたちの明るく元気な声が、学校に戻ってきました。例年とは異なる夏休みだったと思われそうですが、それでも様々な思い出をつくり、一回り大きくなった子どもたちの姿に逞しさを覚えました。

二学期は学校教育が最も充実する学期です。コロナ禍ではありますが、感染防止対策を確実にを行い、運動会や学習発表会、持久走大会等の行事を創意、工夫しながら実施していきたいと思えます。それらの活動を通して、「知・徳・体」をバランスよく、そして、自己肯定感を高めながら、一人一人の子どもが自己の成長を実感できる学期にしてほしいと思えます。

本校職員も夏季休業中に「研究と修養」に励み、頼もしさが増しました。子どもたちと職員のやる気に満ちた表情がとても印象的な二学期始業式となりました。「二学期終業式の日、日々がんばった自分に感謝できるといいね。」と話しておきました。

令和2年8月25日

## 今こそ思いやりを大切に

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

人は一人では生きていけません。人は互いに支え、支えられながら社会の中で生きています。そして、「思いやり」という温かい心に包まれて生きているのです。

今日の社会では、いじめ問題が依然として存在し、深刻化しています。特に新型コロナウイルス感染症では、ウイルスよりも人の心の方が恐ろしいと思う事案が多く発生しています。心ない誹謗や中傷を見聞きするたびに、悲しくなると同時に寂しさを感じます。特に医療従事者に対する差別的言動は許せません。憎むべきはウイルスそのものであって、感染者ではありません。そのことをもっと冷静になって考え、言動に配慮すべきです。医療従事者の職域倫理に基づいた崇高な行為にもっと周囲が敬意を払うべきです。

他の人へのちょっとした思いやりや温かい心が非常に重要な意味を持つと思います。そのことが相手の心に響くとき、その温もりが周囲に波及し、よりよい生活を築く原動力になると信じています。

令和2年7月14日

## 有意義な夏休みに

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

今年の夏休みは、コロナ禍の影響で例年とは少し違う夏休みになるかもしれません。それでも、家族と過ごした夏休みの思い出は、貴重な人生の財産になるはずで。旅行やイベントといった特別なことではなく、家庭での手伝いやふれあい、なにげない会話を大切にしてほしいと思います。

子供が感じる時間の長さや大人のと違いがあるそうです。時間を体感する長さが、大人と子供では異なるというのです。子供は様々なものに興味を示し、不思議に思い、疑問に感じ、いろいろと考える時間が大人よりも長いので、時間が過ぎ去る感覚が大人より遅いということです。

夏休みは、子供が家庭で過ごす時間が増えます。なかには、早く学校が始まればいいのと思う保護者もいるかもしれません。しかし、子供の興味・関心、疑問とうまく向き合い、保護者にとっても、あつという間に終わる夏休みになればいいなと思います。楽しい時間は、すぐに過ぎ去るのですから。

令和2年7月6日

## 短冊に願いを込めて天の川

校長 石川 雅実

学校の2階多目的ホールの掲示板に、担当の先生が準備して下さった彦星、織姫、天の川が掲示してあります。笹につり下げられた子どもたちが書いた短冊も。

短冊に目を移してみると、「背が伸びますように」「BTSに会えますように」「バレーがうまくなりますように」「レスリングが強くなりますように」「自分の牛が連勝しますように」等々、様々な願い事が書かれていました。中には「家族みんなが、幸せに過ごせますように」と、なんとも微笑ましくも、心温まる願いもありました。

令和を生き、令和の社会を創る子どもたち。一人一人の子どもたちが、それぞれの夢に向かって努力を続けてほしいものです。日々の努力や頑張りが、きっと未来に通じます。人生は、日々の積み重ねであり、振り返った時が思い出です。よき思い出をたくさん積み重ね、よりよき人生を歩いてほしいものです。「みんなの願いが叶いますように」と、短冊にしたためておきました。



令和2年6月26日

## あじさいの花をゴールにかたつむり

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

学校の中央玄関に、いつも養護教諭が季節にあった生け花を飾ってくださいます。今月は、あじさいの花が生けてありました。そこで、生け花の下に「あじさいの花をゴールにかたつむり」と、つたない俳句を書いた紙を貼っておきました。

後日、この俳句を読んだ保護者の方から、次のようなお手紙をいただきました。「あじさいとかたつむりを、人の歩む姿にかけた俳句、今の季節を表す季語に、ゆっくりでもいい、焦らずにじっくりと人生を歩めばいいと思いました。いつもありがとうございます。私もかたつむりのように、ゆっくり、自分らしく、焦らずにがんばります。」

きれいな花を飾ってくれる養護教諭に、感謝の思いを込めて書いた俳句でしたが、お手紙の保護者のように、つたない俳句からでも、いろんなことを感じ、考えられるのだなと嬉しくもあり、恥ずかしくもなりました。私も自分の人生を、自分らしく歩いていきたいと思います。かたつむりのように。

令和2年6月22日

## 心温まる父の日

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

昨日は、父の日でした。離れて暮らす息子からは、嗜好品の最新バージョンをプレゼントしてもらいました。娘からは、「ケーキを買ってきたよ。一緒に食べよう。」と言われ、ごちそうになりました。感謝の言葉は、そこにはありませんでしたが、はにかみながら食卓にケーキを準備する娘の姿が、なんとも微笑ましく思えました。息子からは、夜に電話をもらいました。「今日は、父の日だから。いつも、ありがとう。」と言われ、なんだか照れくさくなりました。「ありがとう。身体に気をつけて、お仕事、頑張ってるね。」と返しました。

両父親共に他界し、私からプレゼントを贈ることはできなくなりました。しかし、二人の子供たちからのプレゼントに際し、「子供たちが、こんなに大きく、優しく成長しました。これから先も子供たちの行く末を見守っていてください。」と、両手を合わせ、報告することができました。天国で、きっと孫の成長を喜んでいると思います。

令和2年6月14日

## 梅雨の間に気（樹）になる想い晴れ晴れと

花徳小学校 校長 石川 雅実

土曜日の夕方から2時間程度、PTA奉仕作業が行われました。ソーシャルディスタンスを保ちながらの作業となりましたが、併設する幼稚園を含め、園児、児童、その保護者、教職員、地域の青年団の応援もいただき、校庭、園庭がとてもきれいになりました。

特に樹木の剪定は、高所での作業のため、学校職員ではなかなか対応できません。また、保護者の所有する農機具は、農園の整備には欠かせません。快く重機や農機具、刈り払い機等を持参し、汗を流してくださる保護者や地域の方々に、ただただ頭の下がる思い、感謝の言葉しか見つかりません。

このような保護者や地域の方々の御協力や御支援は、当たり前のことではありません。そのことを再度、教職員と認識を一つにし、学校に寄せる期待に応えることができるように、今後も更なる教育活動の充実を期したいと思います。目の前で、一生懸命に手伝う園児や児童の姿を見つめながら、そんなことを考えました。

令和2年6月10日

## 幼稚園での保育参観

花徳小学校 校長 石川 雅実

町幼稚園部会研修会が、小学校に併設されている本園で行われ、研究公開保育を参観させていただきました。年少、年中組は「こんなときどう伝える？お友達が嬉しいのはどっち？」、年長組は「ふわふわ言葉とちくちく言葉」と題して、研究主題である「思いやりの心と言葉」の解明に向けた保育を展開していました。

小規模である本園の利点や園児の実態を生かした保育実践でした。担任のきめ細やかな指導や教材の準備等に感心させられました。園児も担任の話をよく聞き、子供らしい感性をもとに、思いやりの言葉や態度について深く考え、発表していました。それらを聞いていると、自分がとても恥ずかしく、心が洗われました。

人間の道徳性は、他律から自律へと向かいます。大人は、幼い子供たちよりも道徳性が優れているはずですが、それなのに実際はどうでしょう。犯罪などの社会悪は、今も後を絶ちません。園児たちの言動から学ぶべき点がたくさんありました。

令和2年6月9日

## 時の記念日に想う

校長 石川 雅実

学校では、6月になると生活目標として「時間を守る」ということを掲げ、時刻、時間について指導する機会が増えます。それは、「時の記念日（6月10日）」を通して、子どもたちに時間の有効活用を考えさせたいからです。

生活のリズムを整えることは、時間を大切にすることにつながります。できている子には、「時間の使い方がうまいね。」「時間を上手に使っているね。」などと褒め、更に時間の活用と行動とを結び付けて意識させてあげる、できていない子には、できたところから褒めていくと少しずつ意欲がわいてくると思います。

「生きる力」として考えたとき、時間を有効に使う能力は将来大きな差を生みます。時間は命の一部だと言った人もいます。すべてのものが高速化する時代ですが、「時の記念日」にちなみ、時間がすべての人に平等に与えられたものであることや有限であることなど、時の有効活用について、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

令和2年6月1日

## 梅雨空に傘の花咲く通学路

校長 石川 雅実

6月に入りました。徳之島でも既に梅雨入りし、毎日、すっきりとしない天気が続いています。そんな中、登校時には、カラフルな傘が並んでいます。

それぞれの家庭で、それぞれの時を過ごし、気分のよい日もあれば、ご機嫌斜めな日もあることでしょう。それでも、雨に濡れながらも登校する子供たち、学校では、友達と仲よく過ごし、大いに学び、充実した時間を過ごしてほしいと願わずにはいられません。ランドセルに大きな楽しみや希望をいっぱい詰めて登校し、下校時には、充実感をいっぱいしまつて自宅に帰ってほしいと思います。

まだまだ続くコロナウイルス感染拡大防止対策、梅雨時の食中毒予防等の衛生面管理、登下校や室内での過ごし方等の安全指導など、6月も配慮すべき点に注意し、子供たちの学びの保障に、職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

御家庭でも、それぞれのお子様に対する声かけや励まし、御指導をよろしくお願いします。

令和2年5月10日

## 毎日を感謝の日に

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

今日は母の日でした。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、不要不急の外出を自粛する巣ごもり生活が続いています。

私も離れて暮らす母親に直接会うことはできないので、電話をかけました。何を語るわけでもないのですが、ただ「今日は母の日だね。いつもありがとう。」と、自分でも驚くほど素直に感謝の言葉を口にすることができました。母も「ああそうか。今日は母の日か。わざわざありがとう。身体には、気をつけてね。」と、なんとも照れくさそうな返事が戻ってきました。短い会話ではありましたが、なんとなく温かな気持ちになれました。

日頃、感謝の気持ちを抱いていても「ありがとう」のたった五文字の言葉がなかなか言えないものです。感謝の言葉は生ものに例えられます。早く言わないと鮮度が落ちてしまいます。その都度、タイミングを逃すことなく言えるようになりたい、毎日感謝の日にしないといけないと、反省する母の日でした。

令和2年4月24日

## 愛する人を幸せに

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

また臨時休業が始まります。学校では、先生方が、休業中の宅習課題や生活のしおり、健康観察カード、各自の日課表等を作成し、子供たちに配付し、全体指導も行いました。

先行き不透明な現状ですが、夢や希望を持って生活していきたいものです。また、他者への温かい思いやりを大切に、偏見や差別心をなくしたいものです。

スタンダールは、「愛情には一つの法則しかない。それは、愛する人を幸せにすることである。」と、説きました。とてもシンプルですが、含蓄のある言葉です。同時に難しい課題でもあります。それでも、今こそ、愛する人を幸せにするときです。まずは、身の回りの愛する人々を幸せにしましょう。どうすることが、幸せにすることに繋がるかをよく考え、実行しましょう。

新型コロナウイルス感染症終息後の世界が、今からとても楽しみです。きっと思いやりや優しさに溢れた、新しい世界に変わっているはずです。そんな希望を抱いています。

令和2年4月28日

## 教え子からのプレゼント

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

私の初任地2年目、当時6年生で、サッカー少年団でもつながりのあった教え子から嬉しいプレゼントが届きました。南極の氷を私の勤務する小学校に送ってくれたのです。残念なことに、届いたのが子供たちの下校後、そして、臨時休業に入る前日でした。ですから、子供たちに南極の氷を見せたり、触らせたりすることが、まだできていません。

それにしても、嬉しいプレゼントに胸が熱くなりました。早速、お礼のメールを送信すると、「南国徳之島の子供たちに紹介した後は、先生の好きな焼酎の水割りで、南極を楽しんでください。」と、南極の写真付きのメールと動画が送られてきました。

聞くとところによると、横須賀港に入港後、このコロナ騒動で下船もできず、家族の住む佐世保にも帰ることができないとのこと。南極という極寒の地で、立派に任務を果たし、心身共に疲労して帰国したに違いない教え子の心情と、そして、その優しさに、目頭が熱くなりました。



令和2年4月16日

## 「コロナ」ではなく「君」に逢いたい

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

横浜市で小学校の校長をしている大学時代の友人からメールをもらいました。コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、島外渡航自粛の要請を受け、今年の大規模連休は、島内に留まることにしたと連絡したからです。

その返信には、「みんな、大変な日々を過ごしているね。お互いに頑張りましょう。」と書かれていました。そして、次のようなメッセージが添えられていました。

「しばらくは、離れて暮らす「コ」と「ロ」と「ナ」。つぎ逢う時は、「君」という字に。（カタカナの「コ」と「ロ」と「ナ」を合体させると「君」という漢字に見える）」

とても心温まるメッセージに感動しました。「君」に逢いたいと思いました。今、日本中、いや世界中の多くの人々が、コロナウイルス感染症と懸命に戦い、大切な人と会えない日々が続いています。一日も早くこの感染症の拡大が終息し、当たり前の日々に戻ってほしいと願うばかりです。皆で協力して、この難局を乗り越えましょう。

令和2年4月6日

## 陽春に夢いっぱいランドセル

徳之島町立花徳小学校  
校長 石川 雅実

令和2年度がスタートしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止策の続く中ではありますが、子どもたちは、瞳を輝かせ、やる気満々で学校生活をスタートさせました。

人と人との出会いの始まりは挨拶からです。気持ちのよい挨拶が飛び交う学校でありたい、地域でありたいと思います。挨拶をはじめとした基本的な生活習慣や生活能力、社会性など、人格形成の基盤は家庭です。保護者の皆様との連携を更に深め、保護者の皆様と一緒に子どもたちの健全育成に努めて参りたいと思います。また、地域の方々ともお話をする機会がありましたが、皆さん、花徳小学校への熱い思いが感じられ、とても頼もしく思うことでした。

さて、令和2年度のスタートにあたり、昨年度の反省を生かしながら、「学力の向上」「心の教育の推進」「体力・気力の向上」に取り組んで参ります。

学校、家庭、地域の持つそれぞれの教育機能を最大限に発揮し合い、揺るぎない信頼関係と連携のもと、「子どもたちのために」を合言葉に取り組んで参りましょう。

学校に身を置く者の一人として、自分に与えられた使命を深く自覚し、課題解決のための自問自答、共通理解と共通実践、成果と課題の共有と次なる一手の模索等、課題設定とその解決を繰り返しながら、よりよい教育実践へと繋げていきたいと考えています。変わらぬ御協力、御支援、よろしく申し上げます。

子どもたちと職員がやる気に満ちた表情が印象的な一学期始業式、入学式となりました。